

促成きゅうりの新品種と整枝法について

1 試験のねらい

冬どり（11月～3月）栽培は、高値期をねらった作型であり、低温弱光期であるため技術面では、適品種の導入や草勢の維持、省エネ対応等の難しさがある。現在「王金女神2号」が冬春どり向け品種として普及されているが、低温伸長性が弱く側枝の伸長が不安定であり、より良質な多収性の品種が望まれている。ところで「シャープ1、天尊」等の小葉で受光態勢がよい促成向けの新品種が市販され始めたので、特性と併せて整枝法について、昭和60年度に検討した。

2 試験方法

1) 供試品種 王金女神2号（埼玉原育）、シャープ1（同）、天尊（久留米原育）。

2) 供試条件（処理）

区 名	内 容	株 間	株/a
慣 行	子づる2節・孫づる1節摘除	30cm	222
改 良 整 枝	“ 3～4節・ ”	35	191
親子づる2本	親づる8～9節から子づる1本を併せ誘引・ほか2～1節摘除	40	167

備考 畝幅150cmの1条南北植え、1区10株の2区制

3) 耕 種 9月20日播種、9月30日接ぎ木（黒だね）、10月18日植え。主枝は約200cmで摘み、直立仕立。単棟ハウス（保温比0.6）使用。ほかは当場の慣行耕種法による。

3 試験結果及び考察

活着及び初期生育ともに順調であり、11月下旬に収穫始め、12月上旬に主枝の摘心を行った。1月中旬～2月末までは都合により低温管理となったので、短形果や尻太り果、肩おち果等が目だったが、果色や光沢は優れていた。3月上旬以降は気温の上昇に伴って果実の肥大はほぼ順調であったが、一部に草勢の低下がみられたので3月20日に調査を打切った。

主枝着果節数（節成率）について、女神2号では処理差はみられなかったが、シャープ1は子づる誘引区、天尊では慣行区が多めであり、側枝数はシャープ1と天尊は慣行区が、女神2号では子づる誘引区が多かった。子づる誘引節位として8節を基本としたが、女神2号では7～9節シャープ1は8～11節、天尊は7～13節からであり、発生伸長については品種差があった。誘引した子づるの伸長はシャープ1が最も優れたが、女神2号と天尊はおくれており、特に天尊では株の変異が大きくやや不整であった。

収穫始期は処理による差は少なかったが、初期収量は各品種とも慣行区が多く、子づる誘引区は少収であった。総収量はシャープ1、天尊では改良整枝区と慣行区が子づる誘引区を上回ったが、女神2号では慣行区と子づる誘引区が改良整枝区よりやや多収であった。良果率は子づる誘引区が各品種とも高く、短形果や肩おち、尻太り果等は少なめで揃えがよく品質が最も優れた。

以上のことから、下位節の子づる（側枝）を1本伸長誘引する整枝法は、シャープ1、天尊等の小葉で受光態勢がよい品種に限って、品質収量面では適切な手段と考えられるが、女神2号のようなやや大葉で低温伸長性の弱い品種では、むしろ慣行法が有利のようであった。更に管理温度を高めた（室温最低12～11℃）条件下における検討が必要である。本年の結果から、シャープ1は女神2号に比べて品質面では優れているので、より多収をねら 改良整枝（子づる3～4節摘除）法絡みで有望な品種と思われる。

4 成果の要約

シャープ1は小葉で受光態勢がよく側枝の発生伸長が良好な良質品種であり、冬どり（11～3月）栽培向け適応性が高い有望品種である。しかし草勢が中位で主枝着果性がやや低い等からやや密植（3.3㎡当たり5～6株）とし、側枝（子づる）3～4節摘除による整枝法を組合せることが生産安定に必要である。

（担当者 佐野分場 塩谷民一）

表-1 着果性と収量（2区平均）

品 種	区 名	主枝 節成 %	側枝 本	子づる 発生節	節 数		収 穫 始月日	果 数 (累積、 m^2)					枝別果数%		
					主枝	子づる		1 月 31日	3 月 20 日				主	子	側
シャープ1	慣 行 改 良 整 枝 親子づる2本	40	18.0	—	24	—	11.25	241	127	546	673	86	19	—	81
		41	15.7	—	24	—	22	220	112	568	680	86	17	—	83
		45	15.9	9.2	24	20	22	183	97	507	604	87	16	16	68
女神 2 号	同 上	44	13.9	—	25	—	11.25	210	166	463	629	81	26	—	74
		45	13.0	—	23	—	25	213	155	448	603	81	26	—	74
		44	15.0	8.1	23	14	25	193	130	490	620	84	21	11	68
天 尊	同 上	46	15.1	—	22	—	23	232	154	477	631	81	25	—	75
		39	14.4	—	25	—	21	230	122	517	639	83	19	—	81
		39	13.1	10.0	25	13	21	218	120	479	599	86	20	11	69

注 1. 側枝数は誘引区の子づる1本を除く。 2. 果数（側枝）には子づる収穫果を含む。

表-2 整枝法と品質（2区平均）

品 種	区 名	不 整 形 果 %					光 沢			果 色			品 質			
		曲 り	尻 細	尻 太	肩 お ち	短 形	前 期	後 期	全 期	前	後	全	前	後	全期間平均	
															$\bar{x}$	C.V.%
シャープ1	慣 行 改 良 整 枝 親子づる2本	25	7	29	44	14	80	79	80	77	79	78	96.1	87.9	92.3	5.2
		25	6	31	46	16	80	79	79	77	78	77	96.1	88.2	92.5	5.0
		27	5	28	42	12	79	80	79	78	77	78	96.5	87.7	92.5	5.5
女神2号	同 上	27	7	26	50	25	79	76	78	75	72	74	94.8	83.0	89.3	7.8
		22	6	28	48	26	77	73	75	75	72	74	94.3	82.7	88.9	8.5
		22	5	24	45	20	78	75	77	75	69	73	94.8	86.0	90.7	5.7
天 尊	同 上	28	9	24	46	22	77	79	78	74	74	74	94.2	84.7	89.8	6.3
		29	10	25	50	21	78	76	77	75	71	73	94.4	85.0	90.0	6.3
		27	8	26	44	19	78	77	78	77	74	75	95.0	86.6	91.1	5.3

注1. 不整形果の曲り、尻太、肩おちは中程度以上、ほかは全果数比率。品質は良80～極良100。

2. 前期は12月1日～1月31日、後期は2月1日～3月20日、全期は12月1日～3月20日間の平均値。